



平凡な女は
ダウナー神様に
依存されて
戻らない

heibon onna ha
dauna-kamisama ni
izon sarete
modorenai



誰もいない
神社は何故か
すごく安心して

それ以来私は
なにかあると
その神社に
足を運ぶようになった

12年経った今も
変わらずに
ずっと



朱音…



かがりゝ
来たよゝ

ガラッ

私の日課は



別に平気

部屋で待ってて
良かったのに
やばくないか？

小学生の時に
発見した
寂れた神社の離れに
一日一回
ご飯を作り
来ることだ

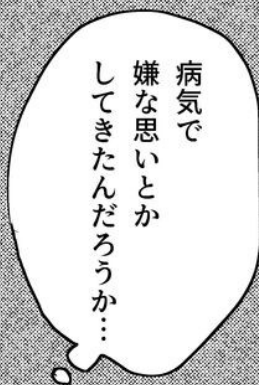


地元から
離れるのは
寂しいけど
無事に就職
出来たのは
神様のお陰です

一か月前







あまりの
生活感のなさで

顔色の悪さに



こーいうのを
田舎のお節焼き
おばさんって
言うんだらうな...



とりあえず
当分の間
ご飯持って
こようか？

気付いたら
口から出ていた



あれ
私名前なんて
教えたっけ...？

それ以来



...ありがとう
僕の
名前は篝

よろしく...
朱音

毎日ここに通って
箸の面倒をみている

今日は
焼きそばだよ

最初は顔色が
雪みたいに真っ白
だったけど
大分マシになった
気がする…

ぱく

あっつ

そりや
そうだよ

箸はどことなく
浮世離れ
していて

大型犬
みたい

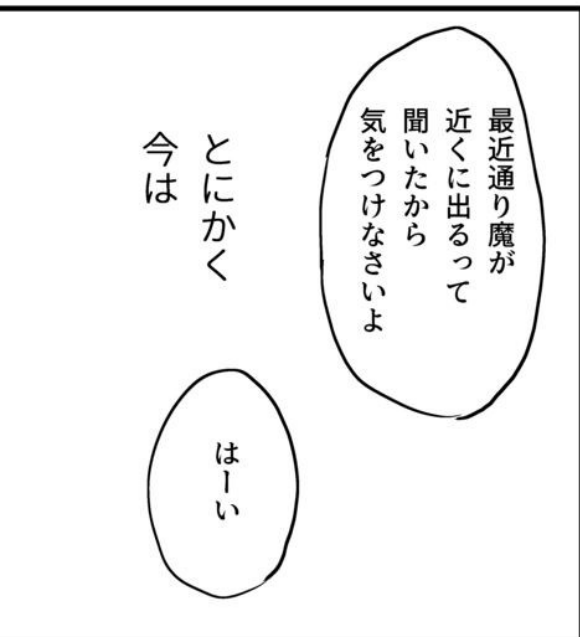
昔飼ってた
ジョンを
思い出すなあ…

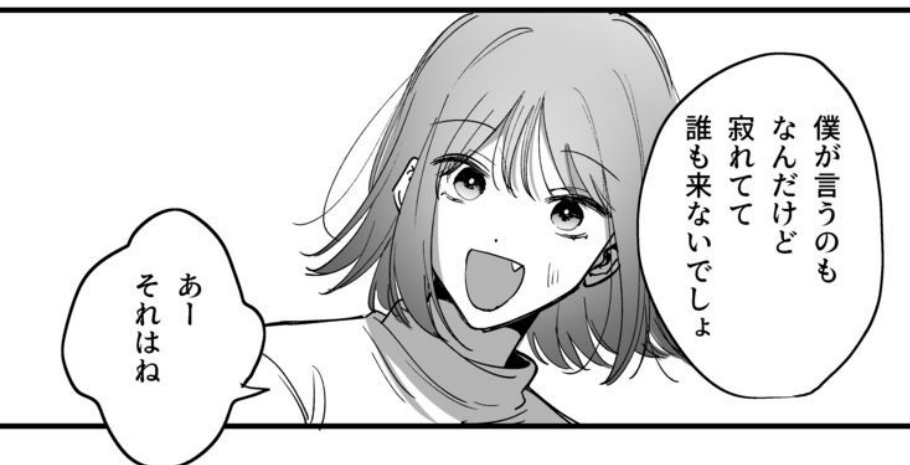
肉…?

何故
疑問形…?

箸は好きな
食べ物とか
ないの?

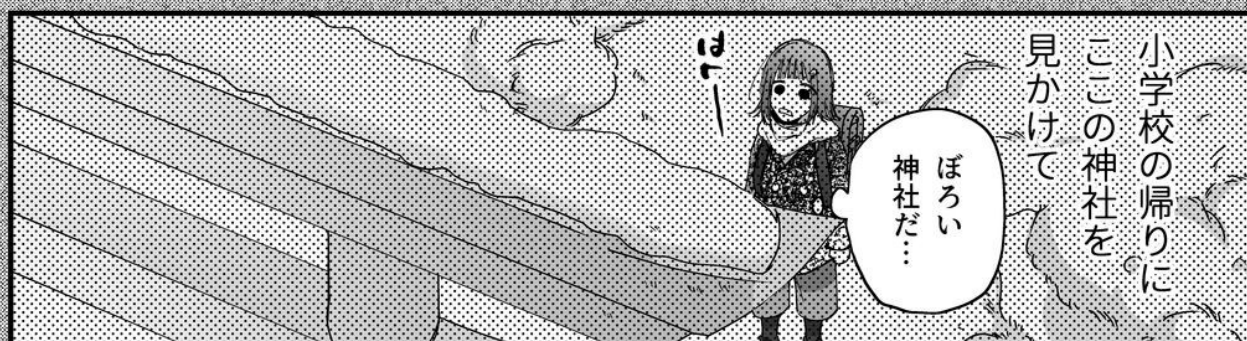
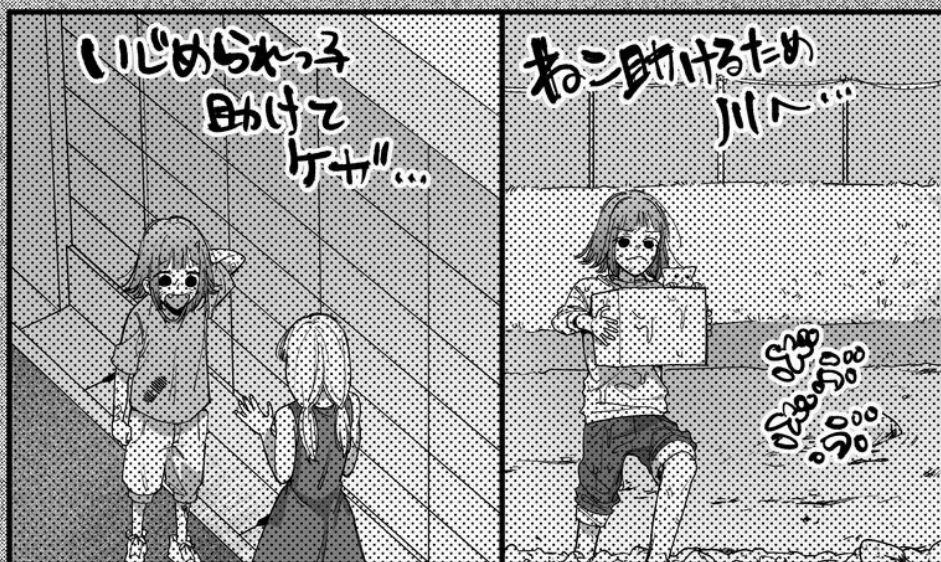
好きな
食べ物…





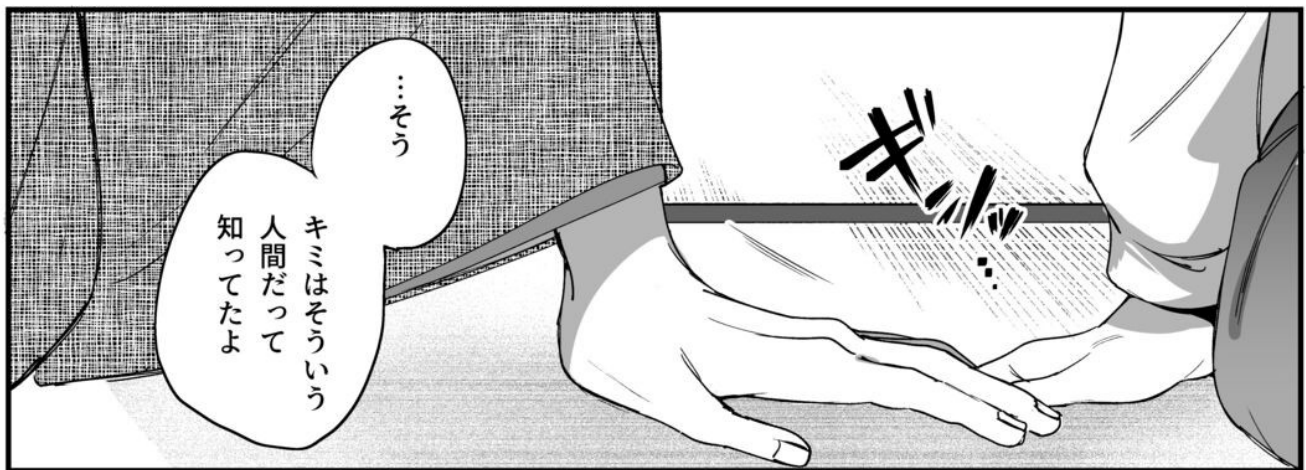
私は小さい時から
色んなことに
巻き込まれる
タイプというか

不運気質で怪我も
絶えなかったんだけど



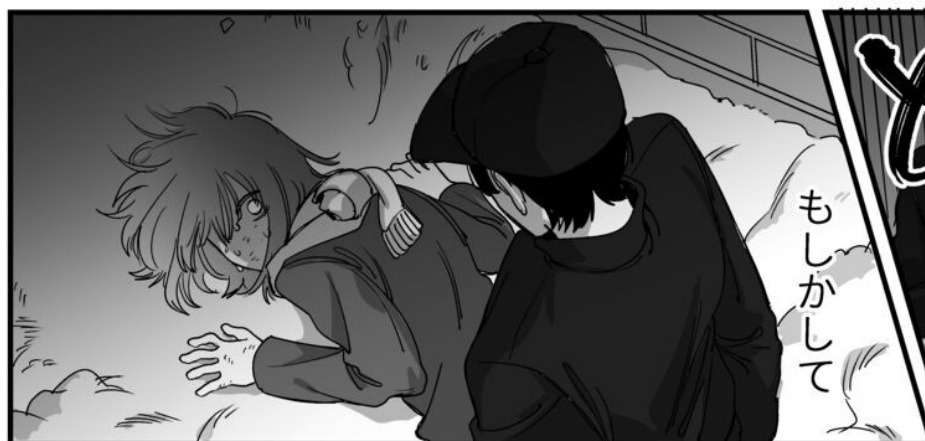


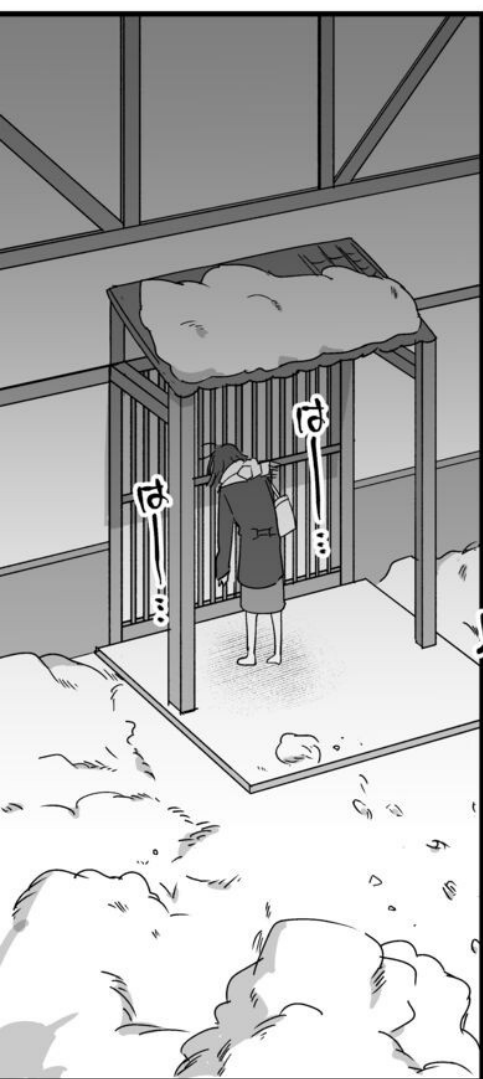






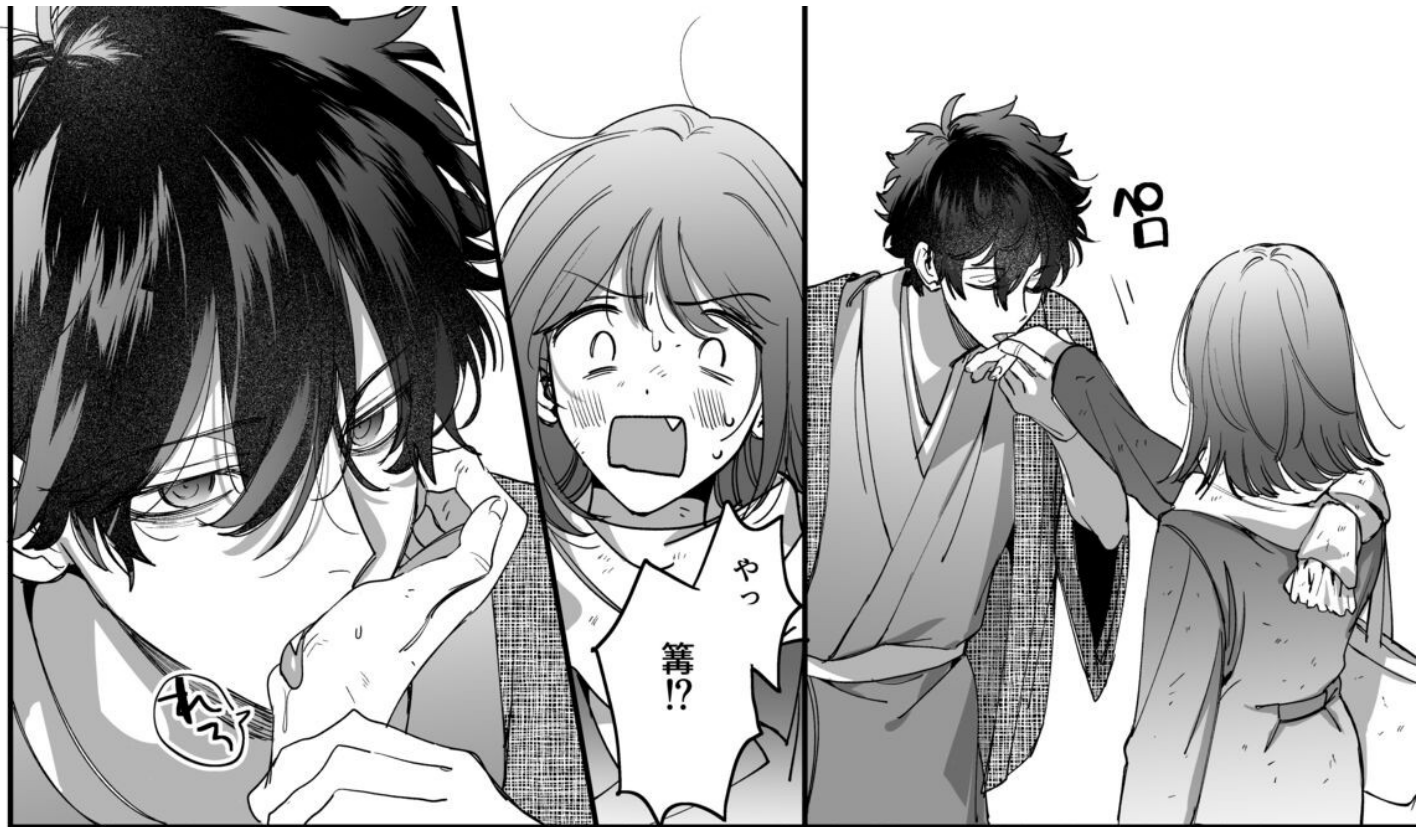






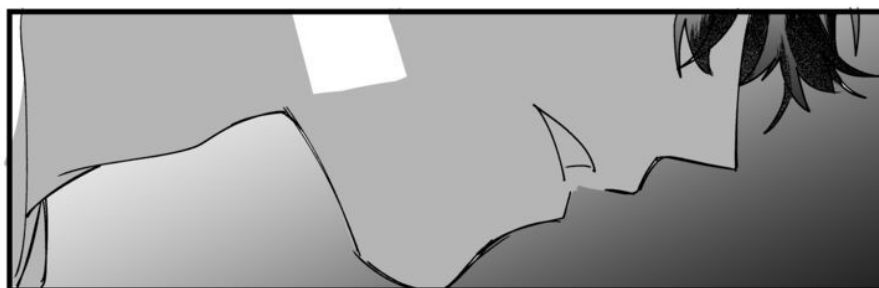








大丈夫
安心していい



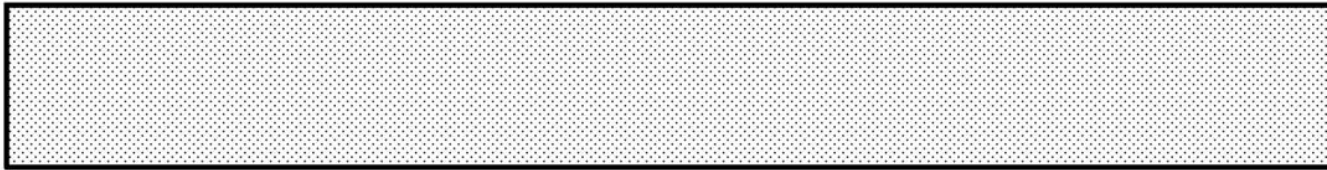
僕が
朱音を
守るから…



明らかに篝からの
スキンシップが
増えた

二週間
あの日から







信じてると言えば
信じてるけど…

でも
神様が願いをなんでも
叶えてくれる存在
とは思ってないかな

パキン



…朱音は

神は
いると思う？

パキン

あは
なんか
その質問
危ない人みたい

パキン



前も言ったけど
自分自身で
努力しないと
なんにもならないと
思ってるし…

パキン



…朱音はそうやって
昔から努力して

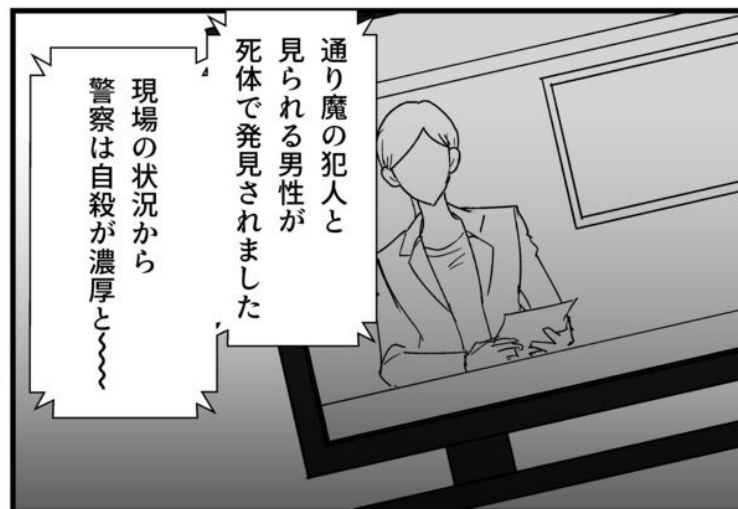
この地元唯一の
進学校に通って
大学にも合格して

パキン

就職も無事に
内定をもらった
んだもんな

え…







誰…

オオカミ…？

キミが
生かした
存在だよ







最近ずっと
慣らしてたから

気持ちいい
よね？



なんの話…？



ふふ
見たい？

寝てるのに
声が我慢できない
朱音の姿

キィ



はぁ

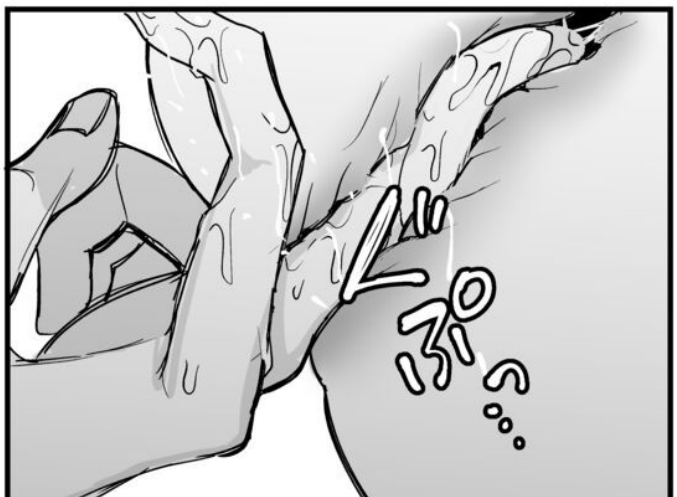
もぞぞ…

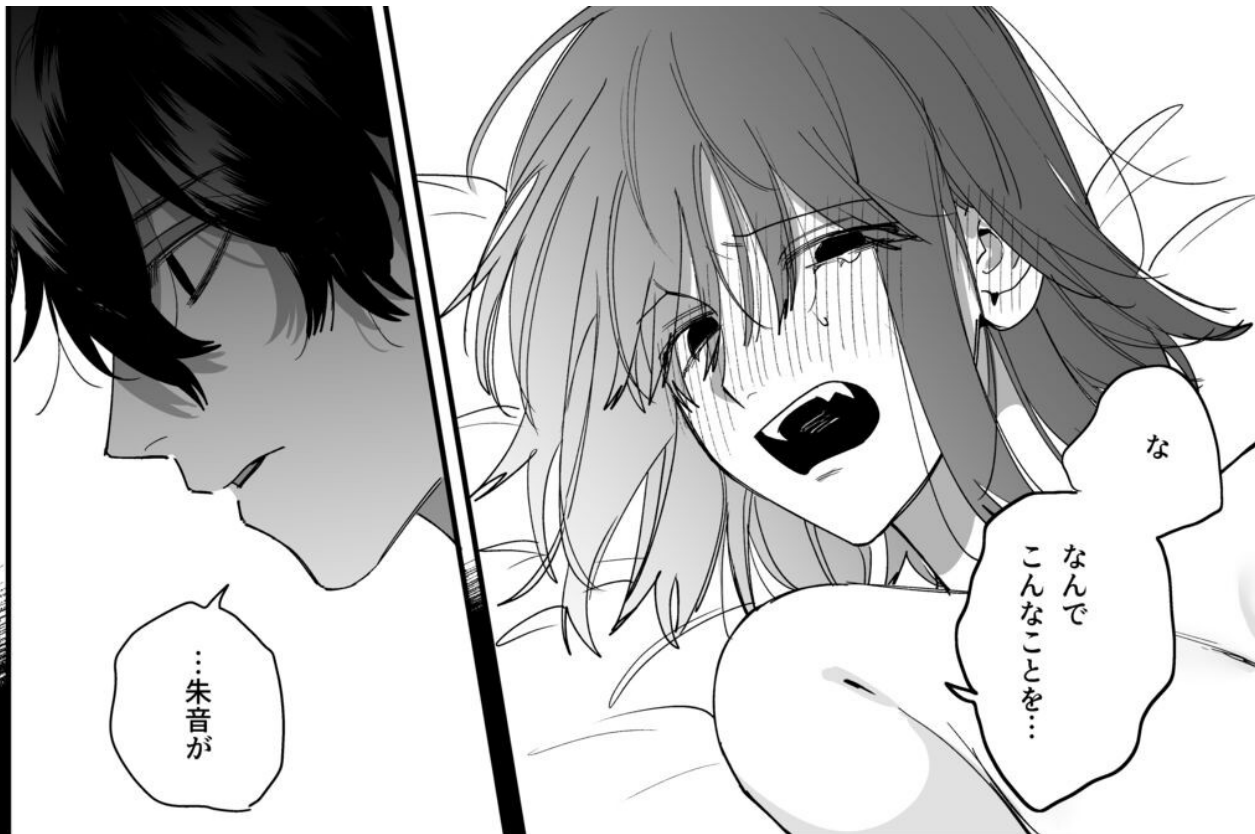
ん…

はぁ

はぁ
あ、あ、あ、あ







いつから
誰も来なくなったのか
なんて覚えていない

ただひたすら
寒かった



神は人がいないと
存在出来ない

なのに人は
神から
離れていく





ああ
そうか

もう
消えるのか

…まあ別に
いい

人に
忘れ去られた神に
存在価値は…

明日のマラソン
怪我は
しませんよーに



朱音の小さな
信仰が
僕を生かした

それからずっと
キミと一緒にいたよ

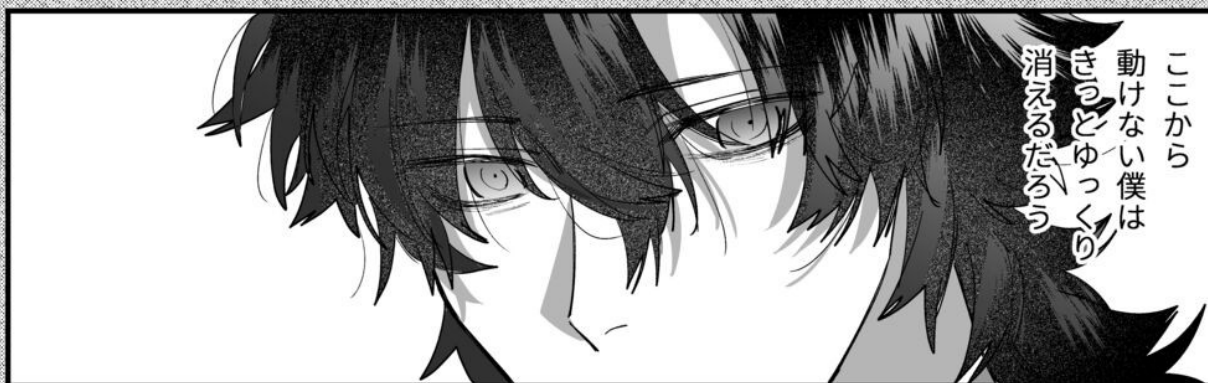
僕は朱音の
ためだけに
存在しているから



キミが
県外に行くって
聞いて



ここから
動けない僕は
きりとゆっくり
消えるだろう



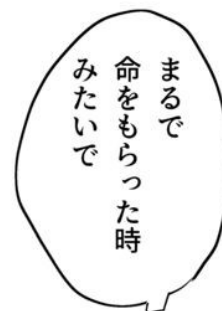
別に朱音の
人生のためなら
それでもいいと
思ってた

最後に朱音と
少しでも話したい

それだけ
だったのに

初めて
触れた朱音の手が
あまりにも
あたたかくて







篝は
どうなるの…



私が
逃げたら…



逃げるなら
今だよ



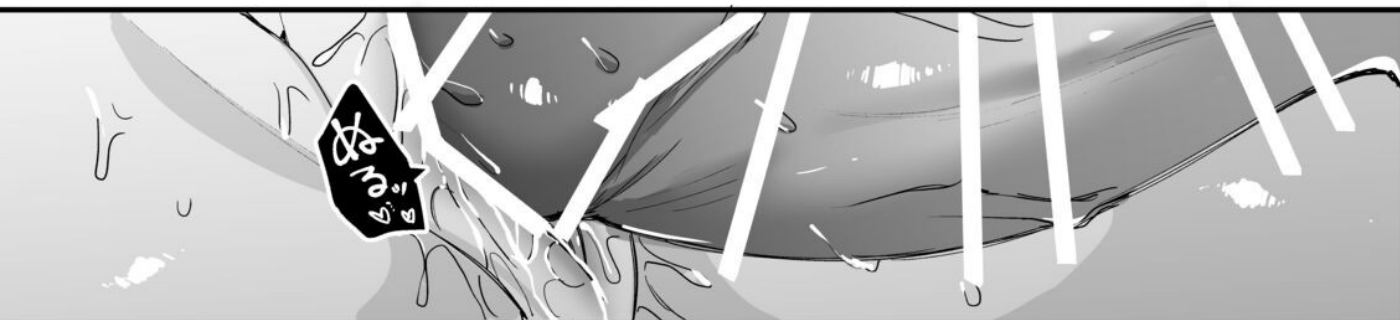
消えちゃうんだ

ずるいよ

こんな時に
優しい顔を
するなんて

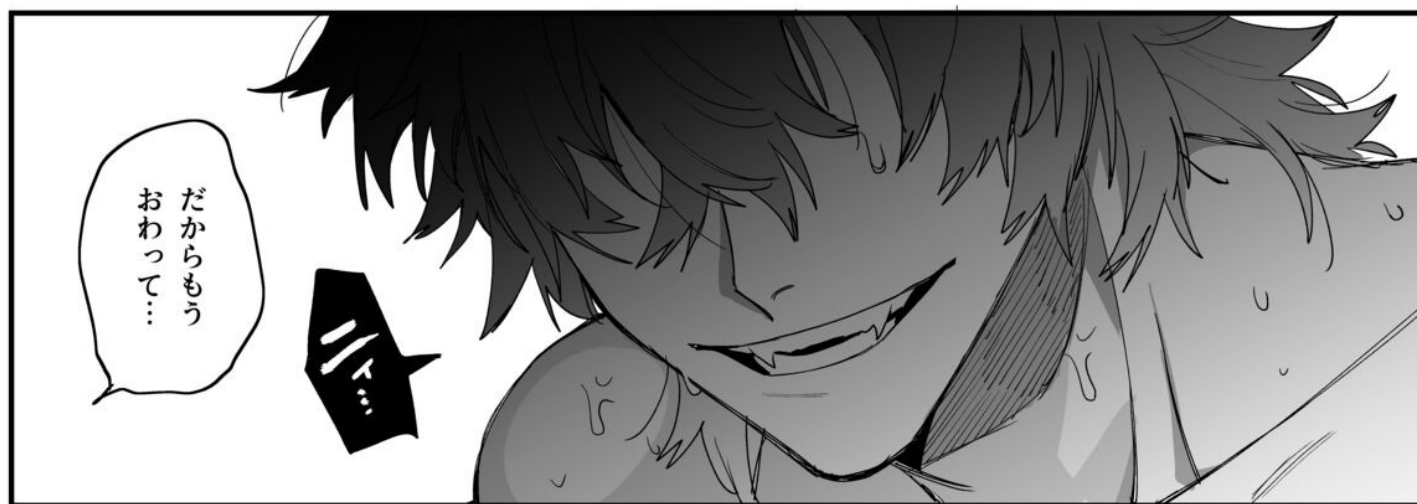


もう
逃がして
あげられないよ







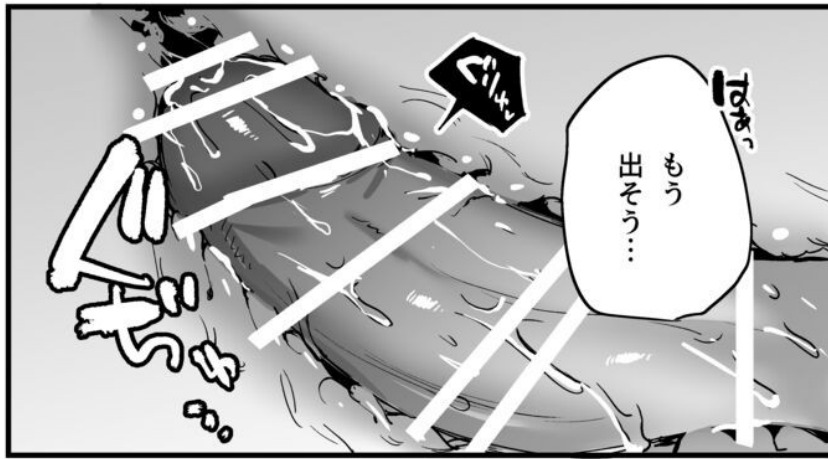


















優しさを
利用したのは
否定しない

でもそれに
なんの問題が？

大事なものは
隠しておく

神にとっては
当たり前の話だ



オオカミは
番と決めた相手には
一生一途だから



朱音に
永遠の愛を
あげる

神様に好かれた
人間の末路は
総じて

籌

1000年前に生まれた神
消えかけだったが朱音の信仰で生き永らえた
それ以前のことはもうよく覚えていない
他の神と違い朱音のことだけを見ている
朱音はなによりも大事だが、
あくまでの神目線での愛情なので
人間の感覚とはズレがある
時間という概念が無い神の空間に
朱音の信仰を本人ごと閉じ込めて
永遠のものにした



朱音

お節介焼きで小さい時は割とうざがられていた
それを承知で手を出してしまう自分にも
問題があると思っている
困ってる人を見捨てることが出来ない
結果神の番として閉じ込められてしまう神隠しエンドに

梅ねぎ大明神

umenegiman@gmail.com

本作品は実在する人物、

団体とは一切関係ございません。

無断転載、複写、改変は禁止致します。

Reproducing all or any part of the contents is prohibited.



平凡女は
ダウナー神様に
依存されて
戻らない

出会ってから
初めてのこと
ばかりだ

朱音

我慢出来たのを
誉めて
ほしいくらい

heibon onna ha
dauna-kamisama ni
izon sarete
modorenai